

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

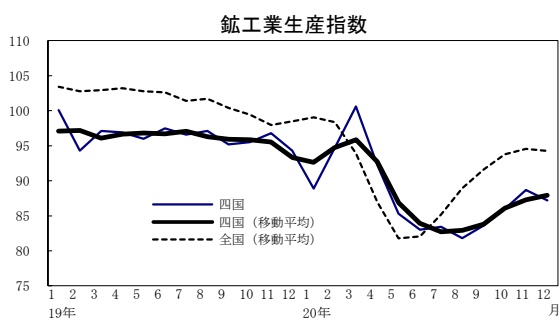
前回からの主要変更点

	前回（令和2年12月）	今回（令和3年3月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	↓
鉱工業生産	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	持ち直している	このところ弱含んでいる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

10—12月期の鉱工業生産は、輸送機械が増加したこと、食料品が増加したこと等により、前期比5.3%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7—9 月期	10—12 月期	10月	11月	12月
化学・石油石炭	22.1	1.0	2.5	▲0.5	1.9	1.2
食料品	13.8	▲1.8	4.8	5.7	▲6.6	▲3.8
電気機械	12.8	▲7.8	5.5	4.5	1.5	▲0.7
汎用・生産用機械	11.3	▲6.0	6.1	4.7	14.3	▲12.6
輸送機械	7.9	▲18.9	18.8	▲7.6	20.3	13.5
鉱工業	100.0	▲4.5	5.3	2.9	3.1	▲1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10—12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ弱含んでいる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

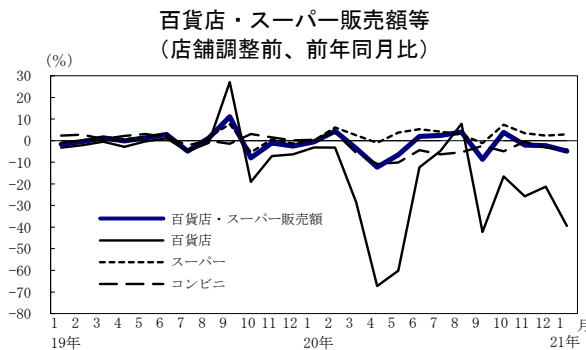
10-12月期は前期比2.7%増となった。月別にみると、10月は前月比0.6%増、11月は同0.1%増、12月は同0.2%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

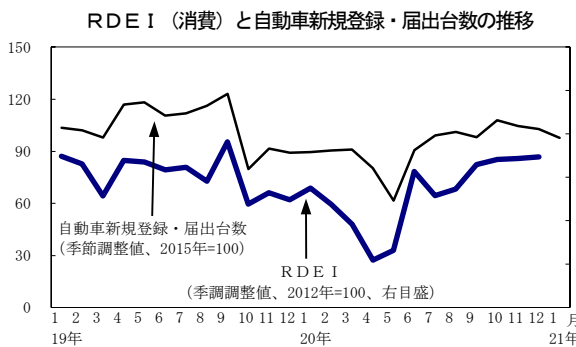
百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.4%減となった。月別にみると、10月は前年同月比3.8%増、11月は同2.0%減、12月は同2.4%減となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比21.5%減となった。

スーパーは、10-12月期は同4.2%増となった。



	2020年		2020年		2021年
	10-12月	10月	11月	12月	1月
RDEI (消費*1)	2.7	0.6	0.1	0.2	—
百貨店・スーパー(*2)	▲0.4	3.8	▲2.0	▲2.4	▲4.9
百貨店(*2)	▲21.5	▲16.6	▲25.8	▲21.3	▲39.5
スーパー(*2)	4.2	7.4	3.5	2.3	2.9
コンビニ(*2)	▲2.9	▲4.9	▲0.5	▲3.1	▲4.1
乗用車(*3)	20.9	33.7	14.6	16.2	6.7
(季節調整値) (*3)	5.7	9.9	▲3.0	▲1.8	▲4.9

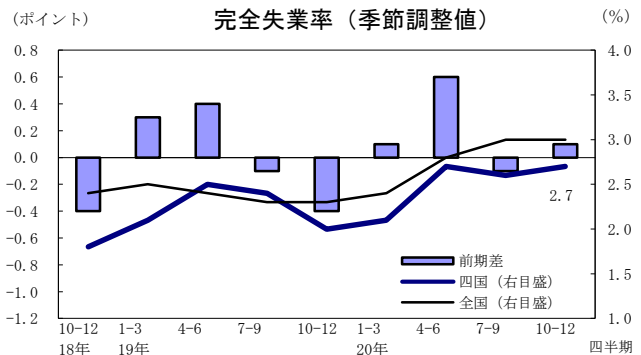
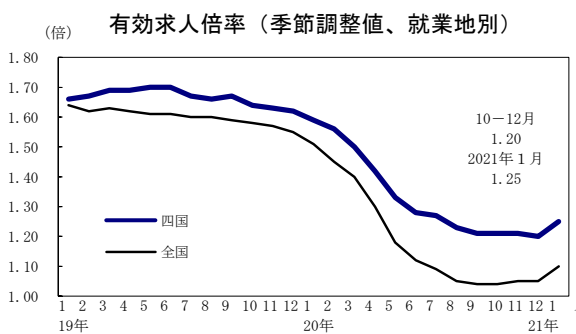


- (備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)
 2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)
 2021年1月は速報値。
 3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

